

梶山歴史文化館 企画展

モノと デジタル アーカイブ ～その現実と実際～

会期

3月28日[水]～6月29日[金]

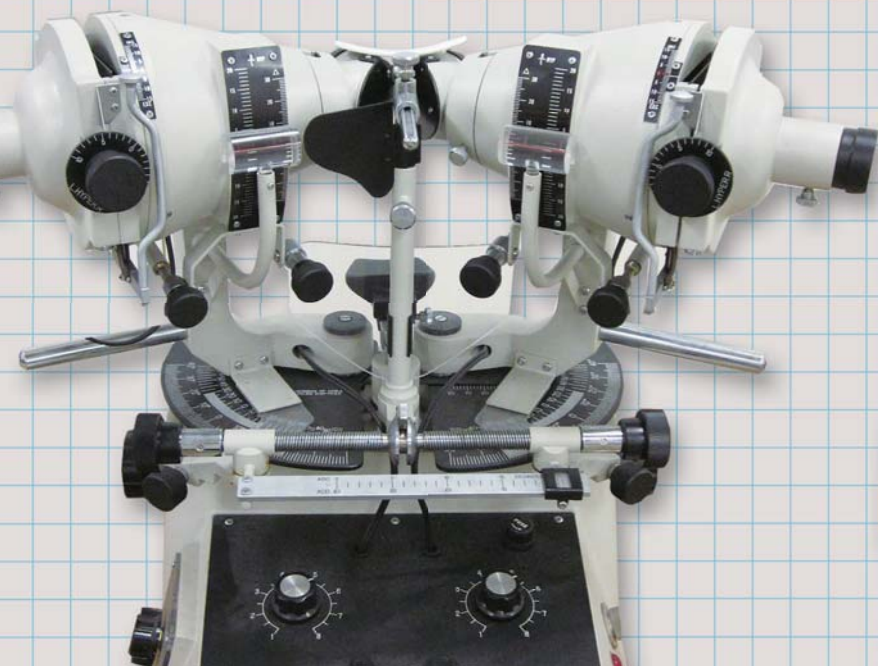
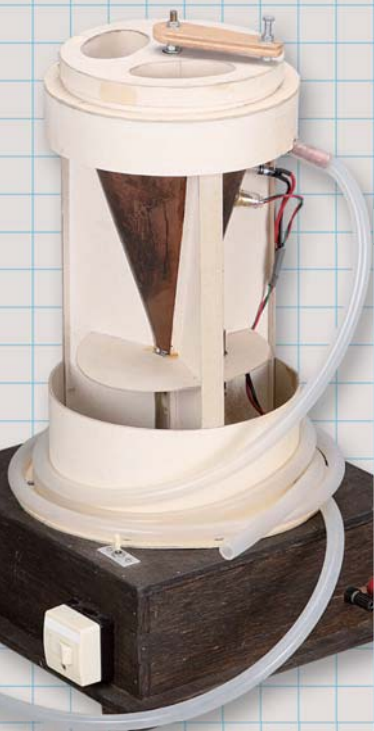
(水曜・金曜開館、10時～17時 (3月中は16時まで)、入場無料)

会場

梶山歴史文化館 文化展示室

(梶山女学園大学図書館4F)

主催:デジタルアーカイブ研究会(学園研究費A)



モノとデジタルアーカイブ

～その現実と実際～

梶山歴史文化館 企画展「モノとデジタルアーカイブ～その現実と実際～」は、歴史文化館のデジタルアーカイブ研究会が学園研究費Aを得て、その成果のひとつとして企画立案されました。情報化の進む現在、デジタル情報による資料ドキュメンテーションは、世界の趨勢です。また、今後増え続ける資料の保存スペースや、経年変化による資料の劣化、展示スペースを考えるとウェブによる保存と公開が必須となります。この企画展では、そうした問題点について展示したいと思います。

■展示内容

【 雛形 】

学園の前身、名古屋裁縫女学校以来の裁縫教育の手法として利用されてきた雛形の一部がデータベース化されています。雛形研究会によるデータ化の過程もあわせてご覧ください。常設展での実物展示とともに、デジタルアーカイブされるとどのような利用方法が考えられるでしょうか。

【 掛け軸 】

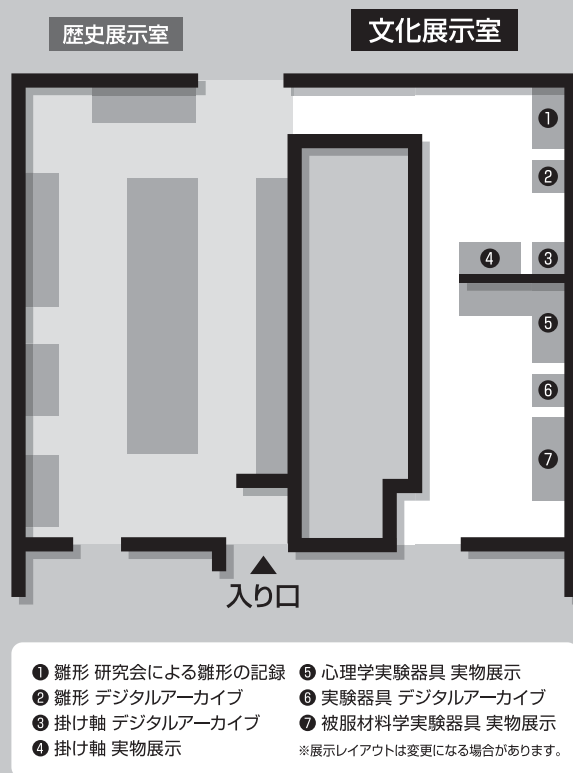
学園創設者、梶山正式先生が残された掛け軸のデジタルアーカイブです。現在ウェブで検索、閲覧することが可能です。ウェブを利用できるとアクセスが容易になり、具体的な資料もイメージしやすくなります。

【 実験器具 】

25周年の人間関係学部に残る心理学実験の実験器具の一部です。わずか、25年なのですが、心理学実験器具から、技術の発達と変化がうかがえます。過去の実験器具から時代を感じます。

星が丘に大学が移設されて50年になります。当初、家政学部一学部で発足した大学も七学部になりました。今回展示するのは家政学部以来勤務されていた中山晃名誉教授手作りの被服材料学のための実験器具です。

これらの実験器具はそれぞれの学部の歴史を語るものですが、同時に、こうした立体をどのようにデジタル保存するかを考える材料になります。手法の一つとして考えられるのは、3Dによる記録なのですが、他にどのような保存方法があるでしょうか。



■主催

デジタルアーカイブ研究会

- ・杉藤 重信 人間関係学部(代表)
- ・飯塚 恵理人 文化情報学部
- ・福永 智子 文化情報学部
- ・三木 邦弘 現代マネジメント学部
- ・小倉 祥子 人間関係学部
- ・阿部 順子 生活科学部
- ・宮下 十有 文化情報学部

梶山歴史文化館

■会場案内

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号
星が丘キャンパス(図書館4F) 梶山歴史文化館 文化展示室
◎地下鉄東山線「星ヶ丘」下車、6番出口より徒歩5分
◎駐車場はご用意していません。公共交通機関をご利用ください

